日立第七皇子諱○宇多爲皇太子、

〔皇胤紹運錄〕光孝天皇

宇多天皇諱定看

貞觀九五五、降誕、元慶八四十三、爲源氏、十八、先之元服、仁和三八廿五、爲親王、廿六、受禪、廿一、同年十一十七、卽位、

〔古事談一王道后宮〕陽成院、御邪氣大事ニ御坐之時、依不御坐儲君、昭宣公、○藤原基經親王達ノモトヘ行廻ツヽ見事體給、○中略依此事陣定之時、融左大臣、嵯峨皇子有帝位之志云、被尋近皇胤者、融等モ侍ハト云々、昭宣公云、雖爲皇胤、給姓○源只人ニテ被仕タル人、卽位之例如何云々、融卷舌止、

〔扶桑略記二十七圓融〕貞元二年四月廿四日、左大臣源兼明、被停大臣職、改爲親王、叙二品、任中務卿、年六十二、

〔榮花物語二花山〕大殿○藤原兼通おぼすやう、世の中もはかなきに、いかでこの右大臣、○藤原頼忠いますこしなしあげて、わがかはりのそくをもゆづらんと覺したちて、たゞいまの左大臣兼明のおとゞときこゆる、延喜のみかど○醍醐の御十六の宮におはします、それ御心ちなやましげなりときこしめして、もとのみこになしたてまつらせ給ひつ、さて左大臣には、小野宮の賴忠のおとゞをなしたてまつり給ひつ、

〔本朝世紀〕寛和二年四月廿八日丙寅、四品盛明親王出家入道、醍醐天皇第十五皇子也、春秋五十九云々、○中略件入道親王、初賜朝臣姓、後更爲親王也、

〔皇胤紹運錄〕順德院——忠成王

彥仁王正三位右中將、賜源姓、——忠房親王任中納言中將、文保三二十八、无品親王宣下、彈正尹、母關白良實公女、